



# アルゼンチン通信



第17号 2025年12月31日発行(毎月月末発行予定)

JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理

玉東町グローカル2024年03月卒業生

鈴木功二 サンティアゴ・デル・エステロ在住

市内にあるクリスマスツリー



- ・12月は、日中40℃近くの日が続いていたと思えば、南方から急に冷たい空気が入り、雨が降って、朝20℃以下の少し肌寒い日になったりと、気温差が大きい日々が続いていたのですが、月末になると安定して暑い日が続くようになりました。
- ・12月30日が、こちらでは今年の仕事納めですが、年の瀬を感じることがありません。同僚は「年末だ。」とつぶやいて、年の瀬を感じているようですが、それは、卒業式やクリスマスといった12月の行事に紐づいて記憶している為と思われます。
- ・私が年の瀬を感じない理由は、
  - 1) 年の瀬は「冬=寒い」と長年記憶に定着しており、暑いし、蝉の鳴き声や八百屋の店頭にスイカといった夏の風物詩が目につく為、
  - 2) 年末年始に一週間ほど続く連休がなく、クリスマスイブとクリスマスの二連休、大晦日と元旦の二連休、各二日間だけの休みの為、
  - 3) 年越しそばやおせち料理といったこの時期に特有な食べ物を見ることがなく、いつもの肉等、普段どおりの食事の為だと思います。
- ・12月08日(月)は、日本では大東亜戦争(太平洋戦争)の開戦日ですが、こちらでは「聖母受胎日」で祝日でした。聖母マリアがこの世に生を受けた日です。ドイツでは祝日ではなかったので、カトリック特有の祝日なのだと思います。新聞記事によると、この日は「クリスマスツリーを飾る日」で、飾る方法を細かく解説していましたが、同僚に訊くと厳密に守られていないようです。私生活ではこの「細かなことにこだわらない、ゆったりとした」感覚が私は好きです。

今回は新聞、特に私が住んでいる地方新聞を紹介します。

- ・日本には、読売、朝日、毎日といった全国紙があるように、アルゼンチンにも、クラリンやラ・ナシオンといった全国紙があると思っていたのですが、ここサンティアゴ・デル・エステロでは、そのような新聞が売られているのを見たことがありません。代わりに目にするのは、エル・リベラルやヌエボ・ディラリオといった地方紙です。また、ディラリオ・パノラマというデジタルに特化したニュース媒体もあります。京都にも「京都新聞」、熊本にも「熊本日日新聞」といった地方紙があります。面積や人口構成等が違うので、単純比較はできませんが、サンティアゴ・デル・エステロ市の人口が約24万人なのに二紙もあるのは多い、マスコミへの支持やこだわりがあるのだと感じます。
- ・ここでは、最も歴史があるエル・リベラル紙を紹介します。創刊は1898年、京都新聞はその前身が1879年、熊本日日新聞のその前身が1882年に創刊されたので、ほぼ同時期に創刊されて130年程の歴史があります。
- ・12月31日に購入したエル・リベラル紙の価格は400ペソ(約50円)、紙面にはなぜか451ペソと表示されているのですが、1ペソ硬貨も50ペソ紙幣もほぼ流通していないのに、この表示価格の意味がわかりません。タブロイド版ですが、128ページもあるので、日本の新聞よりコスパは良さそうです。
- ・日本の元旦の新聞は、新年特集や新年の挨拶で分厚い印象がありますが、12/31のエル・リベラル紙には「元旦に新聞は発行しないのでウェブを見てほしい。」とトップの目立つ箇所に通知されていて、新年の挨拶広告が数多く掲載されています。日本の感覚では、大晦日の12/31は「良いお年を！」、元旦は「新年おめでとう！」ですが、細かいことは気にしないのがこの良いところです。
- ・年末になると、今年の10大ニュース等と一年を振り返る特集が組まれますが、エル・リベラルでも200件程のニュースが取り上げられました。しかし、日本に関するニュースはゼロです。こちらで「高市首相」の名前を知っている人は稀で、「たかいち」と正しく発音できる人はさらに稀です。ガザ情勢やミャンマーの大地震等、大きな事件でないと取り上げられません。
- ・エル・リベラル紙の特徴を日本の地方紙と比べると、
  - 1) 地元記事の紙面が多く、充実している。: 日本では2ページ程に対して、こちらは8ページもあります。

- 2) 不動産の個人売り広告が多い。: 街中を歩いていると空き家が目につきます。日本でも空き家は多いのですが、不動産屋を通すことが多く、新聞紙上で売り買はることは少ないです。
- 3) 計報欄が多い。: 日本では有名人の計報が掲載される事はありますが、一般的には稀なのに対して、この日は9名の計報が通知されました。この計報欄を見る為に新聞を購入する人がいます。
- 4) 容疑者/逮捕者の写真は、背を向けた状態で顔出しない。: 日本では、背を向けた写真を掲載することはありません。人権を配慮しているのでしょうかね。

【12月31日発行のエル・リベラル紙】



【新聞に掲載された容疑者と警察官の写真】



【1928年のエル・リベラル本社】



(スペイン語版を同時配信)

【現在のエル・リベラル本社】



鈴木功二